

# 自由が丘地区 市政懇談会資料 (意見交換)

日時：令和7年11月28日

午後7時～

場所：自由が丘公民館

## 市政懇談会出席者一覧

役 職	氏 名
市 長	なか 仲 た 田 かず 一 ひこ 彦
副 市 長	いし 石 だ 田 宽
副 市 長	ごう 合 だ 田 仁
教 育 長	おお 大 きた 北 ゆ 由 美
総合政策部長	あか 赤 まつ 松 ひろ 宏 あき 朗
総務部長	ふじ 藤 わら 原 けん 健 じ 二
市民生活部長	くだ 降 まつ 松 とし 俊 き 基
健康福祉部長	やま 山 しろ 城 ち 千 あき 明
産業振興部長	あら 荒 いけ 池 よう 洋 じ 至
都市整備部長	とも 友 さだ 定 ひさし 久
上下水道部長	にしき 錦 のぼる 昇
議会事務局長	こう 公 もり 森 のぶ 伸 あき 明
消 防 長	だい 大 とう 東 しげ 成 よし 吉
教育総務部長	もり 森 た 田 ま 眞 き 規
教育振興部長	やま 山 ぐち 口 まさ 正 あき 明

## 地区からの意見・提言(意見交換)

自由が丘地区

	意見・提言の内容	回答者
1	防犯ライト(センサー式)補助金の創設について	市民生活部長
2	外国人の転入者に対する市の対応について	市民生活部長
3	防犯カメラの設置について	市民生活部長
4	外国籍の方との共生	市民生活部長
5	認知症の取組 その2	健康福祉部長

## 市政懇談会 回答

地区名	自由が丘地区	
意見・提言等	1	防犯ライト（センサー式）補助金の創設について（市民協議会）
(内容)		
<p>市の施策において防犯灯の設置を推進されていることは承知しておりますが、自由が丘地区においても、夜間暗い通路があり、一人で歩いてると大人でも不安を感じことがあります。</p> <p>この度、自由が丘地区の小学5年生～中学3年生（小学生231人、中学生320人、合計551人）に対し、アンケート調査を行ったところ、夕方の通学路などで暗くて怖い思いをしたことがあるかの問い合わせに対して、約17%（92人）の児童生徒が「怖い思いをしたことがあります」と回答しました。中学生に限定すると19%（60人）と割合があがり、比較的中学生の方が怖い思いをもっていることがわかりました。</p> <p>怖い思いをする具体的な場所としては、人通りの少ない道（397件）や池や森のそば（288件）が上位となる結果でした。</p> <p>まちの中に人が近づくとパッと明るくなる「防犯ライト」（センサー式）があつたらいいと思うかという質問に対しては約77%（426人）の児童生徒が「はい」と答えています。</p> <p>地区の生活安全活動推進協議会の中でも、警察の方から防犯センサーライトの設置が不審者や空き巣などの抑制対策に効果的なので広げてほしいとアドバイスを受けています。ソーラー電源で自走するセンサーライトは4,000円～7,000円程度ですが、各家庭の玄関口や各自治会が任意の場所に設置し、地域の防犯力を加速的に上げるために補助金の創設を要望します。</p>		
回答	(担当課) 市民生活部 生活安全課	
<p>市としましても、各家庭の玄関口に防犯センサーライト等を設置することは、犯罪の発生抑止や市民の安心感の向上に繋がるものであると考えています。</p> <p>また、防犯対策の取組として、令和7年9月現在、市全域で10,195灯、うち自由が丘地区には1,392灯の防犯灯を設置し、夜間における犯罪の防止と通行の安全確保を図っています。</p> <p>このため、夜間の暗い通路等への対策として、まずは防犯灯の設</p>		

置を検討いただきたく存じます。

なお、限られた財源の中で、地域全体の安全性を高めるために、今後もどのような住まいの防犯対策の制度設計をするのが適切であるのか検討してまいります。

## 市政懇談会 回答

地区名	自由が丘地区	
意見・提言等	2	外国人の転入者に対する市の対応について (市民協議会)
(内容)		
<p>三木市在住の外国人の方の増加により、自由が丘地区でも外国人の住人が増えてきています。時代は共生社会に向かっていますので、外国人の方が住まわれることは問題ありませんが、居住地域内での荒っぽい車の運転や歩道を利用せず道路にはみだす歩行者や道路で遊ぶ子どもたちなど、外国人の交通ルールの認識が住民と乖離していることに危惧しています。もちろん外国人だけでなく、日本人でも同様の場合もありますが、凄惨な事故が起こる前に共通認識を図るなど事前対応をすることが、外国人と共生する上で必要なことだと考えています。</p> <p>市の外国人に対する交通安全等への対策はどのように実施されているかお伺いします。</p>		
回答	<p>(担当課) 市民生活部 生活安全課 市民生活部 市民協働課</p> <p>市では、安全で安心なまちづくりを推進するための取組としまして、現在、交通安全対策3か年重点プロジェクトを実施しており、そのプロジェクトの中で外国人を対象とした交通安全教育を拡充し、更なる交通安全意識を醸成しているところです。</p> <p>また、外国人に対する交通安全教室については、毎年、幼稚園や認定こども園をはじめ、小学校、中学校および高校への交通安全教室を開催しています。</p> <p>さらに、市内の企業に対しまして、外国人向けの交通安全教室の案内チラシの送付や、市ホームページに外国人を対象とした交通安全教室の開催案内を掲載するなどして、開催希望のある企業等に出向き、外国人に対する交通安全教室を開催しています。</p> <p>つきましては、この他にも地域やグループを対象とした外国人向けの交通安全教室の開催も可能ですので、ご相談の際は市生活安全課までご連絡ください。</p>	

## 市政懇談会 回答

地区名	自由が丘地区			
意見・提言等	3	防犯カメラの設置について（市民協議会）		
(内容)				
自由が丘地区では合計17か所の防犯カメラを自治会が設置しています。				
しかしながら、各自治会管理であるため、メンテナンス不足による故障や設置場所が限定的で公共性という観点からはまだまだ不足していると感じています。				
については、事件の解決や防犯を目的とする、市直営の防犯カメラの設置を要望します。				
今後、設置候補場所について地域の警察と検討していきたいと考えておりますので、市の方も現場立ち合いや協議の場への参加をよろしくお願いします。				
回答	(担当課) 市民生活部 生活安全課			
市では、市と自治会等との役割分担をしながら市内に防犯カメラを設置し、安全・安心なまちづくりを推進しています。				
現在、自治会等が設置する防犯カメラの補助事業に加え、市による防犯カメラ設置事業としまして、令和6年度から令和8年度までの3年間で合計60台（1年に20台）の防犯カメラの設置を三木警察署と協議・調整しながら進めています。				
また、自治会等への防犯カメラ補助事業としまして、県の9月議会において防犯カメラ整備支援に関する補正予算が可決されたことに伴い、10月20日から12月26日まで新設補助及び更新補助ともに二次募集を実施中です。				
今回の二次募集では、県の補助要綱の緩和等により、新設補助及び更新補助とともに1自治会当たりそれぞれ1箇所から2箇所に拡充されていますので、この制度もご活用いただきたく存じます。				
なお、自治会が防犯カメラを設置する際には、必要に応じて市も協議等に参加させていただきたく存じますので、その際にはお声がけいただきたいと存じます。				

## 市政懇談会 回答

地区名	自由が丘地区	
意見・提言等	4	外国籍の方との共生（市民協議会）

### （内容）

三木市在住の外国人の方の増加により、生活様式の違いから様々な課題が出てきています。今後、共生社会を築いていくために以下の点について地域で取り組むとともに、市としても支援していただきたいと考えています。

#### ①自治会加入促進、騒音問題について

→外国籍住民の方への説明・対応をする際に、区長だけでは言葉の壁や文化の違いにより、意思疎通が図れずトラブルになる可能性もあるので、ポケトークの貸与や国際交流協会がサポートをしてもらえないか。

#### ②ゴミの分別について

→多言語でのゴミカレンダー、分別アプリの作成  
(目で見て、単語で分かるもの)

※ゴミカレンダー、分別アプリは日本語版のみである。

上記のような、外国籍住民の方とのコミュニケーションを取るための支援をお願いします。

回答	(担当課)	市民生活部 市民協働課
		市民生活部 環境課

①ご提言のとおり、三木市では外国人住民の数が年々増加しており、お互いの言語や習慣の違いから地域住民との摩擦や様々な生活上の問題が生じています。これらに対応するため、市では令和2年5月から外国人住民相談窓口（市役所4階 国際交流プラザ）を設置し、関係各所と協力しながら問題解決に向けて対応しています。何か心配事がありましたら外国人住民相談窓口へご相談ください。

市では、転入の際に多言語の生活情報誌を配布しており、また、転入してきた外国人住民は自分に必要な生活情報（ごみカレンダー等）を関係各課で受け取っています。企業に向けては、交通ル

ルや防災、救急やごみの捨て方などについて説明する生活オリエンテーションも実施しています。生活オリエンテーションについては、まだまだ利用頻度が少ないので、より一層の周知に努めてまいります。

国籍が不明であったり、複数の国籍の住民が住んでいるような地域は、市では、まずは、「やさしい日本語」でのコミュニケーションを勧めています。

ポケトークの貸し出しは行っておりませんが、外国人に対する自治会活動への参加やごみ出しマナー等も含め、外国人に伝わりやすいチラシ等の書き方や情報の伝え方などについては、外国人住民相談窓口へご相談ください。

国籍に関係なく共に地域で暮らす市民として、誰もが住みやすいまちづくりを推進するため、市としても協力していきたいと考えています。

②多言語に対応したごみカレンダーについては、言語が多種にわたることや作成経費の観点から作成していません。

これまでから、ごみの分別やごみ出しマナー等についての各区長様からのご要望・ご相談には個別に対応させていただいております。具体的には、ベトナム、ポルトガル、英、スペイン、韓国、中国、アラビアの7か国語のごみ分別表のひな型を作成しており、該当のごみステーションの収集日を記載してお渡ししているところです。

また、ごみ分別アプリについては、ご指摘のとおり、日本語版のみでの運用となっていますが、現在、多言語化の充実を図るための改修について、アプリ開発会社と経費的な面も含めた調整を行っているところです。

国籍に関係なく共に地域で暮らす市民として、誰もが住みやすいまちづくりを推進するため、市としても協力していきたいと考えています。

## 市政懇談会 回答

地区名	自由が丘地区	
意見・提言等	5	認知症の取組 その2（市民協議会）

(内容)

昨年に引き続き認知症をテーマに、特に認知症カフェなど運営されているスタッフの意見、要望からの提言

●運営スタッフからの生の声

- ① 集い場へ行くための付き添い介助が必要、1部のバスが集い場である志染駅まで運行されていない、自由が丘公民館止まりで途中から歩きになる
- ② 運営スタッフが高齢又は、高齢化からくる将来の継続維持の不安、将来の支援後継者の育成が必要
- ③ 集い場へ行くのに隣、近所の目や噂が気になって、行く足が遠のく、別の地域からくる利用者もいる、参加人数の頭うちの原因にもなっている
- ④ ②③の問題事案から認知症観、認知症を知る機会が少ない。広く啓発してもらう機会をつくって欲しい
- ⑤ 昨今の物価高から開催にかかる、資金不足が課題

●自治会を含めて地域で解決できる事案

- ① 開催場所を公民館にする  
公民館にすることにより、①の途中からの徒歩が無くなる、また③の隣、近所の目や噂がある程度軽減できる
- ② 開催する際に、利用者負担金を値上げする（現行100円）又はコープさんからの補助金アップの交渉  
※①について軽減はできるが根本的な解決ではない  
②について市からの補助金アップも考慮して欲しい

●意見提言

- ① 昨年の市政懇談会において、学校教育関係の方に認知症の扱い手の相談（認知症の理解を含めた教育、啓蒙）をしましたが、現在どのように進行しているか、進捗状況をお聞かせください。

- ② 集い場へ行く際に、隣近所の目や噂が気になる事、集い場へ行く際の付き添い、介助は、認知症カフェなどの運営継続維持を図る上で極めて重要な事案であると考えます。そこでまず最初に、認知症への理解を深めることが大切。市が現在行っている認知症サポーター養成講座について、講座開講申請の条件は基本10名参加が必要とありますが、それに加えて人権の講座のように定期的な開催を交えて、知って、理解してもらう機会をつくってもらいたい。
- ③ 認知症テストなるものを行っていると聞きました。認知症を楽しく理解し、学べる一つの機会と考えます。まだまだ一般市民に広まっていないようです。もっと広く広報活動（自治会回覧協力）して頂ければ理解してもらえる人が増えると思います。

以上、意見提言するにあたり、自由が丘自治会を中心となり一つとなって取組みますのでご検討よろしくお願ひします。

回答 (担当課) 健康福祉部 高齢福祉課

① 若年者にも認知症への理解を深めていただくため、今年度は、校園長会で「認知症サポーター養成講座」の開催についてご説明し、9月から準備が整った市内3つの小学校（平田・広野・三樹）の授業で実施しています。他の小学校でも順次、授業で取り入れていただけるように調整してまいります。

また、社会福祉協議会への委託により実施している高齢者ファミリーサポートセンター事業の広報について、三木北高校の協力を得る中で、高校生が認知症の人やその家族と交流する機会も想定されたため、三木北高校でも授業の一環で認知症サポーター養成講座を実施しました。

② 国では、2040年に65歳以上の7人に1人が認知症になると推計されています。このような中、市では、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である「認知症サポーター」の養成講座を開催し、令和6年度までに7,048人が受講されました。

この講座の申請条件は概ね10名以上の参加としておりますが、10名未満の場合でも、個別に対応しておりますのでご相談く

ださい。

また、今年度は、認知症について幅広く知っていただけるように10月に市民向けの講座を行うほか、11月にはステップアップ講座も実施します。

この他、地域の集いの場（サロン）や地域での介護予防教室でも認知症について触れるなど、あらゆる機会で認知症の理解を深めていただけるように取り組んでいます。

③ 市では、「①認知症予防健診」や「②頭の健康チェック」を実施するほか、ご自身やご家族がセルフチェックできる「③兵庫県版認知症チェックシート」があります。

「①認知症予防健診」は、町ぐるみ健診の1項目として位置付けており、65歳以上の集団健診の申込者全員に、「認知症予防健診」の問診票も送付しています。町ぐるみ健診の一つとして、無料で認知症予防健診を受けやすい環境を作っています。

「②頭の健康チェック」は、簡易な「もの忘れテスト」で、タブレット端末を使って質間に答え、記憶力や空間認知能力などを測定して、認知機能の低下が始まっているか確認を行っています。地域包括支援センター（総合保健福祉センター）、西部サブセンター・吉川サブセンターの3か所で、毎月1回、予約制で実施し、広報みきに日程を掲載しています。また介護予防講座などで、地域に出向いて頭の健康チェックを実施しています。

「③兵庫県版認知症チェックシート」は、認知機能に関する21項目を、本人や家族がセルフチェックしていただき、社会生活に支障が出ている可能性を早期に気づいていただくものです。

これらの取組は、認知症あんしんガイドブックである「認知症ケアパス」にまとめ、「兵庫県版認知症チェックシート」とともに、市のホームページや市内の公民館、医療機関の窓口に設置するほか、介護予防講座や認知症サポーター養成講座など、あらゆる機会を通じて啓発しているところです。

〈×モ〉